自己評価書
（平成２３年度）

平成 24 年 3 月

鳴門教育大学附属特別支援学校

Ⅰ　学校の現況及び目的

1　現況

(1) 学校名　鳴門教育大学附属特別支援学校

(2) 所在地　徳島市上吉野町２丁目１番地

(3) 学級等の構成

小学部　３学級（複式）

中学部　３学級

高等部　３学級

(4) 児童生徒数及び教員数（平成 22 年５月１日）

小学部 18 人，中学部 18 人，高等部 24 人

児童生徒数 60 人

教員数 29 人（正規教員）

2　目的

(1) 目的・使命

本校の目的は，附属特別支援学校校則第１条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して，小学校，中学校及び高等学校に準ずる教育を施し，あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに，同条第２項では「幼稚園，小学校，中学校及び高等学校の要請に応じて，幼児，児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また，校則第１条には「鳴門教育大学（以下「本学」という。）における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し，かつ，本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており，具体的には教員養成大学の附属特別支援学校として，次のような使命をもった学校でもある。

①大学と一体となって，教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究学校としての使命

②地域の教育課題の解明，参観者への指導・助言，文部科学省・県教委・地峡委等からの要請による教員派遣など，教育界の発展に寄与する使命

③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は，校則第１条に示されている目的の達成のため，学校として，また学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

①明るい性格と豊かな人間性を育てる。

②日常生活に必要な習慣や態度を養う。

③生活を高めるため，知識・技能・態度を育てる。

④強靭なからだと意志を養う。

⑤集団生活への適正能力を育てる。

（小学部）

①明るくやさしい心を育てる。

②日常の基本的な生活習慣や態度を養う。

③言語や数量などの基礎的な能力を養う。

④じょうぶな身体をつくる。

⑤校内を主とした集団での生活に参加できるようにする。

（中学部）

①身体の健康及び思春期の不安定さに配慮しつつ，生徒自身が心理的に安定した状態で安全な生活を送る。

②自分や他者にとってよりよい結果を得るために，行動する。

③認知・学習，運動・体力のそれぞれの知識や技能の向上を図るとともに，場面や状況に合わせた態度の育成を図る。

④個々の「参加」の質を高めるために，学習で身につけた知識・技能・態度を実際の家庭生活・地域生活・労働生活に発揮する。

（高等部）

自立した社会生活に必要な知識や技能を習得し，家庭生活や職業生活の中での実践力を身につける。

①健康な身体と強い意志力を育てる。

②将来の社会生活に必要な生活技能や言語，数量に関する能力を養う。

③進んで働く意欲と集中力仕事に対する責任感を養う。

④集団生活を通して，青年期の豊かな心情と社会性を育てる。

⑤自ら楽しむ豊かな余暇生活を創造する力を養う。

ての教育目標に基づき，それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

○明るく，仲よくできる子ども
○じょうぶで，元気な子ども
○よく働く子ども
○力いっぱいがんばる子ども

（小学部）
○やさしい子
○元気な子
○自分からする子
○がんばる子

（中学部）
○健康な身体と健全な心を持つ生徒生徒
○周りの人に自分から意志を伝え，係わりあえる生徒
○学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒
○自分の興味や関心，楽しみを広げ，様々な生活場面に参加できる生徒

（高等部）
○自分と仲間を大切にする生徒
○何事にも生き生きと取り組む生徒
○意欲的に働く生徒
○自ら生活を楽しむ生徒

平成２３年度重点課題

①わくわくする授業づくり

②保護者との連携強化

③危機管理対策の見直し

平成２３年度学校評価シート

学部・部	小　学　部
重点課題	「わくわくする授業づくり」に向けた学部の研究体制の整備
重点目標	1「わくわくする授業づくり」に資する指導の要素を明らかにする。 2「わくわくする授業づくり」に資する教員の指導力を向上させる。

達成の 具体的な評価指標	1・「わくわくする授業づくり」の要素を検討する。 2　小学部の「わくわく」を授業の中にどう盛り込んでいくのかを検討する。 3　小学部の教員評価シートを検討し作成する。 4　教員評価シートに基づいた実践力を培う。
実　施　計　画 (手だて・スケジュール等)	1　小学部の教員一人ひとりが考える「わくわく」の要素を，意見交換して抽出する(学習場面，活動場面，かかわり・要求場面，見通しが持てる場面，達成感が持てる場面等)。 2　授業検討会を重ねながら，指導案：単元(題材)設定の理由に「わくわく」の要素がどのように盛り込まれているかを検討する。 3　学校としての統一様式をにらみながら，教員評価シートを「わくわくする授業づくり」用に検討を加える。 4　全教員が教員評価シートに基づいた実践を行う。

実　施　状　況	1　毎週の学部会や授業検討会において，研究部を中心とし「わくわく」について積極的な意見交換が，３０回以上に渡って行われた。 2　1と同様に，毎週の学部会や授業検討会において，検討が重ねられた。 3　教員評価シートを「わくわくする授業づくり」用に検討を加えることはできず，現段階では教員評価シート作りは出来ていない。 4　全教員が教員評価シートに基づいた実践には至らなかった。
評価指標の達成度 及び 成　果	1　「わくわく」の要素は「わくわく」の視点として８つの項目を抽出することが出来た。 2　本単元におけるわくわくについて(標的行動設定の理由)や，本単元におけるわくわくについて(わくわくの仕掛け)を盛り込むことが出来，公開授業研究会において各学級共に発表することが出来た。 3　教員評価シート作りはできなかったが，「わくわくする授業づくり」として「わくわくシート」が５度の変遷を重ね作成された。 4　全教員　が「わくわくシート」を基に実践することが出来た。

総合評価 (○で囲む)	A	(B)	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下

評　価　根　拠	「わくわく 」の視点を授業に組み込むための「わくわくシート」を作成し，それに基づく授業づくりを行うことができた。
次　年　度　の 課　題	「わくわく」の視点をより的確に授業に組み込んでいくために，PRT（基軸行動発達支援法）等の手法を取り入れての授業実践を行っていきたい。

平成23年度学校評価シート

学部・部	中　学　部
重点課題	「わくわくする授業づくり」に向けた学部の指導体制整備
重点目標	1．「わくわくする授業づくり」に資する指導の要素を明らかにする。 2．「わくわくする授業づくり」に資する教員の指導力を向上させる。

達成の 具体的な評価指標	1．「わくわくする授業づくり」の要素（指導の目的、目標、内容、方法等に関すること）が抽出される。1 年次は、今現在の学習成果に注目し、指導が学習として結実するために必要な要素を抽出する。 2．中学部の看板授業が決まり、授業研究が行われる。 3．1，2に基づいて、学部のガイドラインが作成される。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	1-1. 学習と指導の一致度を、認知を軸として検討する。その予備研究として「記憶」「覚醒」等の作用に関する先行研究の調査をする。 1-2. 1-1. をもとに仮のガイドラインを設定し、予備研究として事例研究を行う。 1-3. 平成 22 年度研究とのつながりから、生徒を 3 グループに分け、自立活動と関連づけたり、ユニットを単位とした授業進行の枠組みを生かしたりして事例研究（本研究）を行う。 2．平成22年度末の協議結果を引き継ぎ、委託作業のうち現金を扱う活動を看板授業候補とする。わくわくする要素が設定できたかを、教員評価シートの項目として設ける。また生徒の目的意識、行動の始発等の検討をさらに深め、生徒評価シートを改善する。 3．2 月の公開授業検討会に向けての研究活動の中で学部のガイドラインを整備する。

実　施　状　況	1．「ユニット」「行動連鎖と対人相互作用」「題材の特性」の３つの要素から授業づくりを行うという方針が決定された。 2．作業学習（委託）を看板授業とし、２回の研究授業を実施した。 3．1．の３つの要素を授業づくりの階層と考え、３つの視点から PDCA を行うガイドラインができた。			
評価指標の達成度 及び 成果	実施計画 1-1. の「記憶」「覚醒」の作用を軸とする点については、PRT の機軸行動を軸として指導の効果を検討する方針に変更した。1-2. 以下については計画通り実施でき、２回の研究授業及び公開授業研究会における授業研究を通して、中学部作業学習のスタイルの基礎づくりができた。			
総合評価 （○で囲む）	(A)	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下
評　価　根　拠	公開授業研究会アンケートで、公開授業及び授業研究会に関して、参加者より２５の記述を得た。「会の時間設定が不十分」という運営の不備についての意見、質問、これからも期待している旨の感想を除く２０の記述は、「中学部の研究について成果があった」という意見と判断された。			
次　年　度　の 課　題	本年度は「記憶」「覚醒」等の作用について検討できなかった。これを再度取り上げるよりは、研究授業等を通して残された課題である「情動」の検討、ペア学習における対人行動のあり方等を課題とするのが妥当と考える。			

平成23年度学校評価シート

学部・部	高　等　部
重点課題	「わくわくする授業づくり」にむけた学部の研究体制の整備
重点目標	①わくわくする授業に含まれる、高等部のわくわくの要素を規定する。 ②わくわくする授業づくりに資する教員の指導力を向上させる。

達成の 具体的な評価指標	・年２回の授業研究会を通して、高等部が考えるわくわくの要素を抽出して、「高等部のわくわく要素」としてまとめることができる。 ・「授業評価シート」と「生徒評価シート」について、昨年度に作成したシートを土台にして、加筆修正等をしながら新シートを完成させる。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	・研究部の計画により、７月と１２月に授業研究会を実施する。 ・５月下旬に、高等部の考えるわくわく要素を抽出する。 ・７月に、学部の考えるわくわくの要素を入れた授業と授業研究会を実施する。その後、研究部より出される学校全体のわくわくの要素と高等部のわくわくの要素を整理検討し、高等部のわくわくの要素を決定する。 ・１２月に、新しいわくわくの要素に基づく授業研究会を実施する。 ・「授業評価シート（教員用）」と「生徒評価シート」について、１２月に修正して新シートを完成させる。 ・２月の公開授業研修会で学部としてのガイドラインを報告する。

実　施　状　況	・研究部の計画に従って、７／１（金）に生活単元学習を高等部３年生のクラスで、１２／９日（金）に同じく生活単元学習を全学年で研究授業として実施した。 ・７／１（金）の研究授業の際に、高等部の考えるわくわくの３要素として、「自主性」「達成感」「協働（共同）」を提案した。 ・１２／９日（金）の研究授業までに、小学部・中学部と関連を持たせた生徒の「行動評価シート」を作成し、実際に授業で使用した結果を発表できた。
評価指標の達成度 及び 成果	・７月と１２月の年２回の研究授業を通して、「高等部のわくわくの要素」を提案することができた。これはそのまま来年度に引き継がれる成果である。 ・「生徒評価シート」については、項目内容や評価項目の具体的例や種類、手立てについて検討し、「行動評価シート」としてより充実した新シートを作成した。

総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下

評　価　根　拠	・高等部の研究仮説にあたる「わくわくの３要素」を設定することができ、それをもとに研究授業を実施し、「行動評価シート」とともに、２月の公開授業研究会において、提案発表として参会者に報告することができた。
次　年　度　の 課　題	・わくわくの要素と「行動評価シート」に基づいた授業実践を行う中で、生徒の確かな行動変容と教員の授業の変容を確認していく。 ・単なる授業実践の積み重ねにならないよう、PDCA サイクルを重視する。 ・高等部の教育目標に沿った領域・教科を合わせた指導や各教科および領域別の指導等について共通理解を深めるとともに授業実践を行う。

平成23年度学校評価シート

学部・部	教　務　部
重点課題	「わくわく」する授業づくり～学習内容のチェック～
重点目標	毎月末の月曜日に，個別の指導計画の進捗状況確認や学習履歴欄の入力を全校統一で行うことで，教科担当者の点検と見直しの意識を高める。

達成の 具体的な評価指標	①授業担当者が半年，年間の指導計画を作成する。 ②授業担当者が月ごとに実施指導内容を報告する。(個別の指導計画チェック日) ③半期ごとに教務部で点検を行い，進捗状況についてまとめる。 ④学年末に学習内容の履習の傾向を分析，報告し，次年度の目標設定を行う。
実　施　計　画 (手だて・スケジュール等)	個別の指導計画に学習履歴欄を設け，そこに実施内容を記載する。 進捗状況の把握や実施報告を取り入れる。 ①半年・年間の指導計画作成。 ②授業担当者が月ごとに実施指導内容を報告する。(個別の指導計画チェック日) ③10月・3月，教務部点検を行う。 ④3月分析。

実　施　状　況	４月～５月に，個別の指導計画の目標・手立ての作成を行った。（５月２７日配布）５月３０日（月）（前期）チェック用紙の作成期間 ５月３０日～６月２４日 ６月２７日（月）／７月１９日（火）／９月２６日（月）／・１０月３１日（月）（後期）チェック用紙の作成／１１月２９日（月）／１２月１９日（月）／１月３０日（月）／２月２７日（月） ＊作成日を含み，年間９回設定して実施ができた。
評価指標の達成度 及び 成果	小学部　前期後期ともに，９名中９名 中学部　前期９名中９名　後期９名中８名 高等部　前期９名中７名　後期９名中７名　　作成または報告人数 成果としては，各自が進捗状況の把握や見直しができる意識が高まったといえる。

総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評　価　根　拠	年間行事として，月に１回の個別の指導計画のチェック日が運用できた。進捗状況の報告手続きや学習履歴の記入ができ，昨年度よりは整備ができた。
次　年　度　の 課　題	個別の指導計画の進捗状況確認や学習履歴欄の入力を全校統一で行うことで，各自の指導の見直しや評価のチェックはできたが，学習履歴の指導内容報告からの傾向分析までには至らなかった。 実施内容の集計に役立て，傾向などの分析や教育課程への反映，次年度の時間割やカリキュラム作成に向けて等，教務部としてデータ活用の方向性を検討していくことが課題である。

平成23年度学校評価シート

学部・部	教　務　部
重点課題	「わくわく」する授業づくり～自立活動を軸とした教育課程への組み入れ～ 個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する際，本校独自で開発した「実態把握のための尺度表」（以下，尺度表）というツールを活用している。尺度表により，全学部の教員が共通の視点で児童生徒像を捉えることができるようになってきたが，新学習指導要領に沿った指導内容の配列ができているか各学部で検討が必要である。また，平成２２年度の研究，校務運営にもとづき自立活動と各教科等との関連を明らかにすることが優先課題として引きつがれる。自立活動や教科等の指導において，アセスメントツールの整備や指導計画の充実を行っていくことが今年度から来年度の課題である。
重点目標	各学部における自立活動の運用システムを完成させる。（２年計画） ・平成２３年度（１年次）は，個々の児童生徒について，自立活動と各教科等の指導の関連について明らかにする。

達成の 具体的な評価指標	①年間を通じて，個別の指導計画を充実させるため，自立活動の学習内容のデータを収集。 ②教務部として，個別の指導計画のマニュアルを作成する。（自立活動） ③平成 22 年度の研究で作成した生徒行動指標のアセスメントツールを活用しながら改訂する。（２年次に向けての計画） ④学部で設定した看板授業と自立活動の関連について検討をする。 ⑤看板授業の学習内容について，新学習指導要領との関連を確認する。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	水曜日に「教科等の話合い」の会を設定して，自立活動との関連において教科等の見直しを行う時間を設定する。 ①エピソード記述　（自立活動の取り組みについて各学部でエピソードを集める） ②事例研究を行う（各教科等と自立活動の指導計画の般化の関係などをみる） ③各教科等の指導内容の検討 ・４～５月にかけ，自立活動の指導計画を作成する。 ・５～７月にかけ，各学部で自立活動の指導計画の見直し，協議を行う。 ・７～９月にかけ，事例研究を行う（事例をもとに自立活動の見直し・事例をもとに教科等の見直しを行う） ・９～10月をかけ，教科等と自立活動の関連をみる（協議） ・10月～　自立活動の個別の指導計画の充実 書式の見直し（教務部）記述内容について（各学部） ・11月～12月にかけ，指導内容の傾向分析を行う。 ・12月～１月にかけ，指導内容の方向性を検討する。 ・２月に，各学部の教育課程編成案を作成する。 ・３月に，今年度のまとめを行い，次年度の計画を立てる。
実　施　状　況	各学部によって会の実施状況に差があったが，年間を通しての水曜日の開催は難しかった。他の会とかさなっている事が多く，実施計画通りはできなかった。
評価指標の達成度 及び 成果	①前期に自立活動の学習内容について話し合う事ができた。 ②教務部から「個別の指導計画」の記入について，前期評価時，後期目標作成時に配信することはできた。自立活動に関するマニュアル作成はできなかった。 ③研究と連携しながら，授業評価シート等の活用をすすめることができた。 ④小・高等部は，生活単元学習，中学部は，作業学習との関連について協議をすることができたが，具体的な関連に関する検討まではできなかった。 ⑤どの学部も新学習指導要領との関連を確認する事はできなかった。

総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下
評　価　根　拠	水曜日の「教科等の話合い」の会が実施できなかった週が多かった。十分な運用ができなかったことが要因である。			
次　年　度　の 課　題	月に１回の開催を目指して設定を行い，自立活動と各教科等の指導の関連について明らかにしていく。個別の指導計画の充実を図り，マニュアルの作成を追加させていく。学部主事，研究部と連携をとり，運用をしていく。各教科等の年間指導計画を活用して，次年度の教育課程の編成につなげていく。			

平成23年度学校評価シート

学部・部	教　務　部
重点課題	「わくわく」する授業づくり～実習指導を通した教員の指導力向上～ 大学附属校として 実地教育は，重要業務の一つの柱となっている。大学側の意向を踏まえた教育実習のあり方について，教育実習の位置づけや運営について，相互の役割と責任を明確にした上で実施をしていくことが必要である。また，指導教員としての役割と評価について，教員の指導力向上という「わくわくする授業づくり」の理念の１つに基づき，共通理解を図った上で，実地教育を行う必要がある。
重点目標	①　教育実習の新しいガイドライン及び評価システムの作成，運用を通して「教員の指導力」の抄本となる要素を抽出する。 ②　①の作成，運用の実践を通して教育実習生，指導教員，相互の指導力を向上させる。

達成の 具体的な評価指標	①実施教育にあたっての心得，評価基準について共通理解を図る。 研修参加者80%以上 ②新しい教育実習のガイドライン及び評価システムについてアンケートをとる。 ③実地教育に対する大学側と本校の役割を明確にするために，特別支援教育に携わる教員に関係する専門性の項目を設定する。 ④大学側との打ち合わせを年間２回以上設定する。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	①８月８日実地教育に関する研修会を設定する。 ②事前アンケートでガイドライン，評価システムに盛り込むべき要素についての意見収集。 ③事後アンケートで実地の達成度の自己評価や改善点の意見収集。 ④事前打ち合わせ，実習期間，事後等の打ち合わせを設定して，大学側との連携を深める。

実　施　状　況	事前指導：６月２日（木）大学の講義「指導案の書き方」について講義 事前指導日：10月３日（月）～10月４日（火） 期間　10月24日（月）　～　11月４日（金）前半 　　11月７日（月）　～　11月18日（金）後半 ①研修会２回開催した。②③実習後アンケートを実施・意見収集④大学側との話し合いを２回実施した。			
評価指標の達成度 及び 成果	①２回開催を行い，研修参加者80%以上を達成。 ②③実習後のアンケート１８名（回答数60％）／新評価については次年度も引き続き行う。 ④事前と事後２回開催ができた。大学側との連携を深めることができた。			
総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評　価　根　拠	①教育実習の趣旨や心得について教員間の共通理解を図った上で実施することができた。 ②③④アンケート実施を行い，大学側担当者と協議をすることができた。			
次　年　度　の 課　題	大学側との連携を踏まえた教育実習の実施。指導教員としての役割と指導力の向上を目指す。新評価表の２年目の実施を行う。教育実習生の自己評価（チェック表）等の検討。			

平成23年度学校評価シート

学部・部	研　究　部
重点課題	「わくわくする授業づくり」～授業力の向上をめざして①～
重点目標	・「わくわくする授業づくり」に関する研究において，学校全体としてのガイドラインを作成する。

達成の 具体的な評価指標	①「わくわく」に関するキーワード，要素から定義付けを行う。 ②学校全体としての授業評価シート（仮称）を作成する。 ③各学部の授業モデルを集約し，全体としての授業モデルを作成する。 ④①～③の内容を公開授業研究会で報告し，意見を集める。 ⑤平成24年度の研究計画を作成する。
実　施　計　画 (手だて・スケジュール等)	①「わくわく」に関するキーワード，要素から定義付けを行う。 1　全体研究会及び学部別研究会（授業検討）で「わくわく」についての要素を集める。 2　導き出された内容から，研究部で「わくわく」の要素を集約する。 3　集約した「わくわく」のキーワードから，研究紀要や文献による先行調査を行う。 4　調査結果を元に，「わくわく」についての定義付けを行う。 ②学校全体としての授業評価シート（仮称）を作成する。 1　前半3回の研究授業までに各学部で授業評価シートを作成する（昨年度の研究資料を参考にする）。 2　授業研究会の後半に，授業評価シートについての協議を行う。 3　各学部の授業評価シート及び協議の内容を参考に，学校全体としての共通する授業評価シートを作成する。 4　アンケート調査による使用感のデータを集め，修正を行う。 ③各学部の授業モデルを集約し，全体としての授業モデルを作成する。 1　各学部の看板授業候補での研究授業及び授業研究会の内容，学校全体としての「わくわく」についてのデータをそろえる。 2　それぞれに共通する部分を集約し，全体としての授業モデルを考える。 3　研究に関する検討委員会で検討後，全体研究会及び班別の授業検討で確認する。 4　後半の授業研究会が終了後，授業モデルの内容，指導の方法などについて，各学部単位で情報を集め（アンケート），もう見直しを行う。 ④①～③の内容を公開授業研究会で報告し，意見を集める。 1　前期までの内容を11月中にまとめ，1章のデータを作成する。 2　できあがったところで，研究に関する検討委員会で確認し，修正したものを全体に周知（職員会）し，確認する（12月）。 3　H23年度の研究内容を掻い摘んで公開授業研究会で報告する。 4　出てきた意見を元に内容を修正する。 ⑤平成24年度の研究計画を作成する。 1　はじめの全体研究会で2年間の大まかな研究計画を確認する。 2　10月にそれぞれの学部の研究内容を集約する。 3　2月の公開授業研究会後にそれぞれの学部の研究内容を集約する。 4　④-4のデータと⑤-1,2の内容をもとに平成24年度の具体的な研究計画を作成する。 5　研究に関する検討委員会で確認後，企画検討委員会で協議し，3月の全体研究会で確認する。

実　施　状　況	①7月に各学部の「わくわく」の要素，視点をもとに協議を行った。定義付けを行うことよりも内容の調整を行う方に力点を置き，わくわくの視点として定めた。 ②授業評価シートの検討を第1～3回までの全体授業研究会で検討を行った。 ③学部での差はあるが，中学部はモデルのための情報を集約中である。小学部，高等部は授業の手続きを確認した。 ④①とその他研究の副産物を公開授業研究会で報告した。 ⑤日程等の大枠は決まってきたが，具体的な研究計画については，3月の研究に関する検討委員会で今後検討する。
評価指標の達成度 及び 成果	①定義付けを行うことはできなかったが，わくわくの視点を定めることができた。 ②授業評価シートの検討を第1～3回までの全体授業研究会で検討を行ったが，作成するところまではいかなかった。 ③「わくわく」の授業モデルの検討を行うところまでいけなかった。 ④「わくわく」の視点から出てきた児童生徒行動評価シートをもとにしたり，授業の題材に「わくわく」の視点を入れたりして授業づくりをしてきた。その内容を公開授業研究会で報告した。 ⑤24年度の研究計画を作成した。

総合評価 (○で囲む)	A	(B)	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評　価　根　拠	①④についてはB評価（75），②③についてはC評価（60），⑤はA評価（80）とし，平均（70）からB評価とする。
次　年　度　の 課　題	全体での方向性を主任として具体的に示すことができなかったこともあり，各学部での研究の進め方に差があった。次年度は今年度の研究をベースに進めることもあり，今の現状を確認した上で，次年度，学部間で一貫した系統性，発展性のある授業づくりが行えるように計画に沿って研究を進めていきたい。

平成23年度学校評価シート

学部・部	研　究　部
重点課題	「わくわくする授業づくり」～授業力の向上をめざして②～
重点目標	・公開授業研究会で，研究の１年次（「わくわく」の定義づけ，授業づくりの在り方など）と各学部の看板授業による授業検討会を行い，研究の途中経過を報告すると共に次年度の参考となる意見をもらう。

達成の 具体的な評価指標	①年間６回の授業検討会をとおして，各学部と全体の「わくわく」の要素が入った授業づくりを行う。 ②「わくわく」の要素が一番充たしやすい授業を，看板授業として各学部で設定する。 ③公開授業研究会で，「わくわく」についてと各学部の授業づくりについてを報告する。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	①②前・後期に１回ずつ全体の授業検討会を開催する。１回目の授業検討会では，各学部の「わくわく」の要素を当てはめた看板授業候補で行う。そこで得られた内容及び全体の「わくわく」の要素を含めて２回目の授業検討会では，学部と全体の「わくわく」を充たす看板授業を設定し，授業づくりを行う。 ③公開授業研究会のプロットを考え，次年度に向けて意義のある研究会にする。

実　施　状　況	①第１回目は各学部の「わくわく」の要素を，第２回目は全体で確認した「わくわく」の視点が入った授業をした。 ②小学部については，学級担任制ということを考慮し，各学級で設定しやすい授業を看板授業として設定した。中学部は，わくわくの要素を満たしやすいということより，昨年度からの研究の流れを受けて，学部の研究計画に基づき看板授業を設定した。高等部はわくわくの要素を当てはめたときに内容と合致しやすいものを選択した。 ③公開授業研究会では，来年度の研究に絡めるように山本淳一先生に授業を見ていただいた。各学部の特性を活かした授業研究会ができた。
評価指標の達成度 及び 成果	①「わくわく」の要素，視点が入った授業ができた。 ②当初の看板授業の定義と授業の設定が違っていることがあった。各学部の運用に合わせて弾力的な運用に切り替えた。 ③公開授業研究会で研究活動の報告ができた。

総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下

評　価　根　拠	実際に行ったかどうかで判断した。「わくわくする授業づくり」の重点目標の内容はほぼ達成することができた。①③については A 評価（100），②についてはB評価（70）とし，その平均（90）でA評価とする。
次　年　度　の 課　題	今年度の運用の反省及び公開授業研究会で得られた意見や課題を活かし，次年度の研究の運営の仕方を考える。看板授業についての運用については今年度の結果をもとに次年度については，全学部統一したものにして行く方向で考える。

平成23年度学校評価シート

学部・部	主事　・　支援進路部　・　地域支援部
重点課題	「わくわくする授業づくり」～校内職員研修会の実施～
重点目標	・校内研修会を運営する。 ・研修提供者は外部支援に向けての資質向上を図る。 ・研修を受けることで教職員の資質向上の機運が高まる。

達成の 具体的な評価指標	研修会後の参加者アンケートで、 ・特別支援学校の教員としての資質が向上したか ・新たな発見があったか ・研修内容が実践に生かせそうか の3点について問い、結果を集計する。 主観的な満足度や自己評価ではあるが、研修の効果測定の材料とする。
実　施　計　画 (手だて・スケジュール等)	①校内研修の年間計画を立てる。 ②内容に関係する校務分掌が講師を担当する。 ③研修会後のアンケートを集計する ④研修内容や運営の方法と集計結果を考察し、来年度の計画に向けて改善案を作成する。

実　施　状　況	1年間本校教員の義務研修として、計画立案、運用に携わった。年間11回の研修会のうち、地域支援部が企画運営したものが5件、地域支援部員が携わったものが4件であった。ほとんどの研修会に関係したことになる。掲示板へのアップやアンケートの配布集計、出席状況の把握については担当主事が行った。			
評価指標の達成度 及び 成果	計画①については、昨年度末に、教務・進路支援・地域支援部長が相談し、年間計画を立案した。計画②については地域支援部に関係する部署を受け持ち実施した。計画③については担当主事が行った。計画④については地域支援部としての改善案を作成中である。２月２９日の企画委員会に提出する。			
総合評価	Ⓐ	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評　価　根　拠	校内研修の計画運営の一端をにない、担当研修について校務として講師や運営を行った。講師を経験した者は校外支援の場でその経験が生かされている。校内教員の資質向上への効果については、アンケートの結果や校内教員からのフィードバックが必要である。			
次　年　度　の 課　題	・義務研修としての位置づけについて再考する→任意の方がよいのではという意見と、義務にしないと全体の資質は上がらないという意見がある。年間もっと多くの研修を計画し、単位（ポイント）制にするという案もある。 ・新着任用の研修を見直す必要がある→本校職員として担任するに必要な予備知識（個別の指導計画や教育支援計画など）を伝達する仕組みが必要ではないか。春休み、新学期が始まるまでに早急に必要。 ・もっと系統だった研修が効率的ではないか→例えば事例研究の基礎になるスキルを身につけるための研修をシリーズで行うなど。 ・校務としては地域支援部の領域かどうかの疑問はある→研究部ではないか。もしくは共同で計画運営するなど。			

平成23年度学校評価シート

学部・部	地　域　支　援　部
重点課題	「わくわくする授業作り」～校内リソースと地域支援情報の校内への発信～
重点目標	教育相談や各種研修会において発信できる授業や支援に関してのアイデアを収集し、校内教員に紹介して共有できるようにする。

達成の 具体的な評価指標	＜アイデア収集について＞ ・校内の授業や支援に関してのアイデアを各学部から収集し、月１回の割合で紹介できるようにする。 ＜紹介の方法について＞ ①前期には、新設したコーナーを知ってもらうようにする。 ②後期には、半数以上の教員が見て、意見交換やアイデアに関しての話題が話し合えるようにする。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	①地域支援部員が情報を収集する。 ＜校内の支援ツールやリソース＞ ・各学部・クラスなどで使われている教材・教具、支援の方法などをリサーチ ・インタビュー記録や写真で情報を収集 ＜校外からの情報＞ ・研修会で得た情報、新ネタ　・研修案内 ・教育相談活動などで得た情報 ・関係書籍情報 ②本校教職員の大多数が目にする場所に提示する。 ・職員室の壁面（ホワイトボードの設置） ・月１程度で模様替え ・手に取って見えるようにする ・貸し出せるようにする ・情報の出所の明記（もっと知りたい人のために） ③評価を確認する：具体的な評価指標（教員の半数がいいねマークを貼る） →いいねマーク：有益な情報であればマークをは貼ってもらう →利用しましたマーク：情報をヒントにやってみた人にマークを貼ってもらう

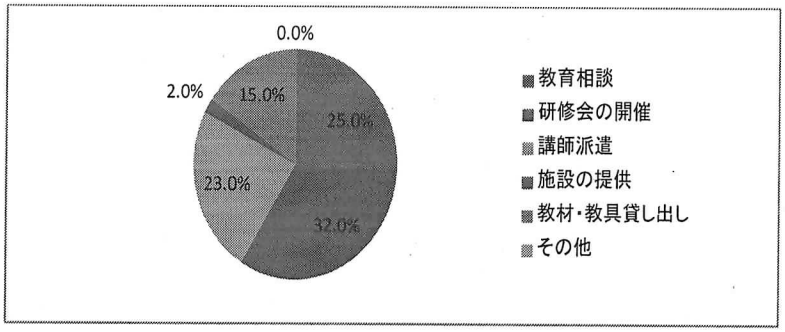
実　施　状　況	計画①の＜校内の支援ツールやリソース＞については、コミック会話・教室の構造化・作業学習・スケジュールの４項目について紹介した。③の方法を実施した。			
評価指標の達成度 及び 成果	校内の情報については１回／２カ月のペースで紹介できた。校外からの情報を校内に発信することは未達成である。校外支援の報告や研修会・書籍などの校内に役立つ情報の提供が不十分である。毎回１／３～２／３の教員が良い情報であると評価している。			
総合評価	A	Ⓑ	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下
評　価　根　拠	地域支援部の掲示板として設置できたことは評価できる。校内リソースの公開によって普段の教育活動への意識づけの一つにはなっていると思われる。しかし、掲示内容については工夫・改善の余地がある。			
次　年　度　の 課　題	運用については、情報の内容や提供方法について工夫・改善が必要である。校外での校務について認知度を上げていくこと、校内の普段の教育活動と外部支援のリンクについての意識を高めていくような掲示方法も考慮する必要がある。			

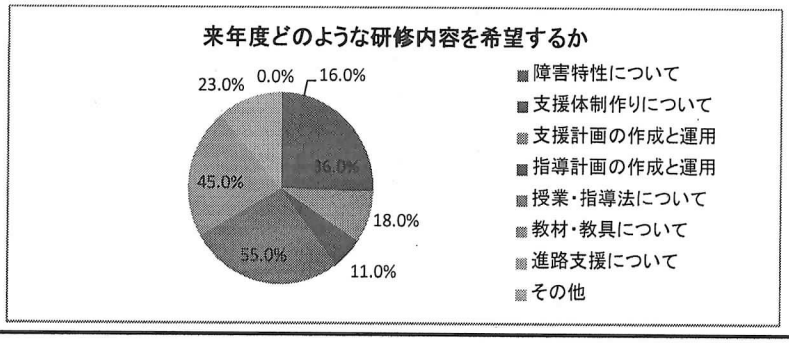
平成23年度学校評価シート

学部・部	地　域　支　援　部
重点課題	「わくわくする授業づくり」～期待されるセンター的機能と校外向け研修会～
重点目標	特別支援学校のセンター的機能を発揮していく上で、地域の関係機関から求められている分野や支援内容を調査し、今後の研修計画や地域支援部の活動内容の方向性を見いだす。

達成の 具体的な評価指標	・夏季公開研修会の参加者から特別支援学校のセンター的機能に関するニーズをアンケートにより調査する。（回収率 100 %を目指す） ・地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校など（20 件程度）から特別支援学校のセンター的機能に関するニーズを聞き取り調査する。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	①夏季公開研修会開催時にアンケートを実施する。 ・「特別支援学校のセンター的機能として求めるものはなにか」について問う １．アンケート項目の選定 ２．アンケートの実施 ３．アンケートの集計 ４．アンケート結果からの考察 ②教育相談・研修会講師などで校外へ出向いた際に「特別支援学校のセンター的機能として求めるものはなにか」について聞き取りをする。

実　施　状　況	計画①②について計画通り実施した。			
評価指標の達成度 及び 成果	夏季公開研修会では、のべ１３８名の参加者があり、すべての研修会で研修内容についてと、センター的機能として求めるものについてのアンケートを行った。			
総合評価	Ⓐ	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下
評　価　根　拠	計画通り、アンケートが実施でき、結果からの考察までが行えた。			
次　年　度　の 課　題	センター的機能として本校へ期待することとして、複数回答で聞いたところ、下記のような結果であった。研修会の開催が３２．０％と最も多く、次いで教育相談、研修会への講師派遣となっている。希望する研修会の内容としては、「授業・指導法について」「教材・教具について」が多かった。本校の来年度の研究内容も考慮して、本校が学ぼうとしている授業づくりや指導法について、公開し研修内容にも盛りこんでいくことが考えられる。			





平成23年度学校評価シート

学部・部	支　援・進　路　部
重点課題	「わくわくする授業づくり」～生徒会活動を核とした生徒指導～
重点目標	1）年間計画に沿って，児童生徒が自主的に運営し達成感を得ることができる生徒会活動への支援。 2）行事等での生徒会活動への参加の意欲を高め，充実感の持てる活動への支援を行う。

達成の 具体的な評価指標	①生徒会役員が最小限の援助を受けながら自主的に生徒会を運営する。 ②学校行事や集会等において生徒会活動のＰＲ活動などを行う。 ③生徒会組織の見直しを図る。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	・活動内容や各役員の役割等について月に１回，生徒会活動日を設置し，協議する。 ・全校朝会等の集会において，生徒会活動をＰＲできるよう内容を配慮及び設定し試行する。 ・全校朝会では保健，人権，進路などから報告や必要な情報をｽﾗｲﾄﾞや具体物を使用して提示する。＊別紙「全校朝会の年間計画」参照

実　施　状　況	・月に１回の徒会活動日は設置できなかった。運動会・学校展・終業式役員選挙など特別活動に取り組む形で進行や協議等の活動を実施した。 ・月に１回の全校朝会を設定し，進行係や準備・片付けを行った。 ・参加者に対しては保健・人権・進路・各学部から必要な情報や報告スライドや具体物を活用して提供した。 ・生徒会役員がもち回り（主に高等部生徒）で，朝の放送を実施し，必要な呼びかけや情報提供，リクエストの募集を行った。			
評価指標の達成度 及び 成果	①活動運営上の起案や進行台本などは準備が必要だが，与えられた台本や活動内容は理解し，進めることができた。習熟度も徐々に上がった。 ②特別活動において部分的な参加ができた。年間の取り組みなど場を特設しての発表（ＰＲ）は不十分だった。 ③生徒会内部での委員会を設置し各業務ごとに活動を進めていく予定であったが，手つかずであった。			
総合評価 （○で囲む）	A	(B)	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下
評　価　根　拠	・生徒会活動変革の２年次として，一通りのフォーマットができつつある。 ・各活動への児童生徒の参加意欲や態度が上がった。（印象として）			
次　年　度　の 課　題	・安定した活動のフォーマットのひとまずの完成。 ・生徒会組織の見直しをすることで月１回以上継続して行える活動を設定。 ※○○委員会や購売部設置など ・他校生徒会との交流や地域ボランティアへの参加，集会等での発表（ＰＲ）活動の推進。			

平成23年度学校評価シート

学部・部	総　務　部
重点課題	「わくわくする授業づくり」～わくわくする学校行事をめざして～
重点目標	①「わくわく」の要素の入った学校行事計画を起案する

達成の 具体的な評価指標	①各行事の目的の中に「わくわく」の要素が入った具体的な文言を組み込むことができる。
実　施　計　画 (手だて・スケジュール等)	4 月：運動会計画　①総務部全員で運動会についての目的を検討する。その際，特別活動の目的及び本校独自の「わくわく」の視点を盛り込む。 10 月：学校展計画 ①総務部全員で学校展についての目的を検討する。その際，特別活動の目的及び本校独自の「わくわく」の視点を盛り込む。 11 月：学習発表会計画　①総務部全員で学習発表会についての目的を検討する。その際，特別活動の目的及び本校独自の「わくわく」の視点を盛り込む。

実　施　状　況	運動会、学校展、学習発表会共に、総務部全員で関わり話し合った。実施の２ヶ月前には計画を出した。全体計画を基に各学部ごとに目標をきちんと考え、共通理解し、実施に至ることができた。
評価指標の達成度 及び 成果	運動会、学校展、学習発表会共に、起案の段階で担当者が「わくわく」の観点から目的を組み込んだ。それを基に部員全員で協議し、企画にあげることができた。その際、改めて学習指導要領の学校行事の目標や内容を読み込み、また、本校の教育の目的も鑑みて総合的にとらえることができた。その上で、具体的な文言にして起案することができた。

総合評価 (○で囲む)	Ⓐ	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下
評　価　根　拠	各行事に「わくわく」の要素を入れた目的を組み込むことができたから。			
次　年　度　の 課　題	学校祭をスタートするに当たり、この行事の目的を明確に打ち出す必要がある。今年度の反省を基に実施していきたい。			

平成２３年度学校評価シート

学部・部	小　学　部
重点課題	保護者との連携の強化
重点目標	「わくわくする授業づくり」を軸にして，小学部の教育課程，教育内容に関する情報公開を進め，連携を深める。

達成の 具体的な評価指標	1 学部の指導や教育的支援，学校教育に関して，保護者に伝えたり質疑応答するために，学部懇談会を年４回以上設定する。 2 保護者からの学校評価において，学部の項目が３評価以上になる。
実　施　計　画 (手だて・スケジュール等)	1　学部の教育課程，教育内容，指導の成果と課題をテーマとして，年３回以上の学部懇談を適宜開催する。 2「わくわくする授業づくり」で学部のわくわくの要素に基づいた，一人ひとりの取り組みについて，保護者に情報公開を行い，指導・支援の結果について評価をもらう。保護者への評価依頼は，各時期におけるアンケートの他，学校評価で一括して実施する。

実　施　状　況	1　４月１５日，６月１４日，９月１２日，１月２３日の４回に渡って学部懇談会を実施し，その内の１回は「福祉サービスの種類やその利用」についての研修を行った。 2　運動会等の行事については，学部としての目標を明示して，その評価を伝えた。
評価指標の達成度 及び 成　果	「授業参観等で，わくわくして授業に参加する様子が見られた」という質問項目では，16 名中 15 名（94%）の保護者が　「あてはまる」「ややあてはまる」という評定を行った。また，授業参観や学部懇談をとおして，「学部の取り組みや教育課程等に関する情報公開をとおして保護者との連携を深めているか」の質問項目でも，16 名中 15 名（94%）の保護者が「あてはまる」「ややあてはまる」という評定を行った。

総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下

評　価　根　拠	上記のアンケートの保護者評定により，B 評価と判断した。
次　年　度　の 課　題	アンケートにおいて、進路に関する情報提供が「充分ではない」「わからない」という評定を示した保護者が 4 名（25%）であった。次年度はこの点に重点を置いて，保護者との連携強化に努めたい。

平成23年度学校評価シート

学部・部	中　学　部
重点課題	保護者との連携強化
重点目標	「わくわくする授業づくり」を軸に、保護者に対して、中学部の教科課程、教科外課程に関する情報公開をすすめ、連携・協働関係を深める。

達成の 具体的な評価指標	1．中学部の指導や教育的支援、学校教育に関して、保護者に伝えたり質疑応答したりする趣旨で、学部懇談会を年3回以上設定する。 2．保護者の学校評価において、学部の項目が3評価以上になる。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	1．中学部の教育課程、教育内容、指導の成果と課題をテーマとして年3回の学部懇談を持つ。時期は、年度初め、後期のはじめ、年度末に設定する。 2．「わくわくする授業づくり」で中学部がねらう「生徒の目的意識、始発性」の視点から保護者にあらかじめ情報公開を行い、指導・支援の結果について評価をもらう。運動会、学校展、就業体験等の各時期において、指導・支援の趣旨説明を徹底する。保護者への評価依頼は各時期におけるアンケートの他、学校評価で一括して実施する。

実　施　状　況	1．「わくわくする授業づくり」に関して3回の学部懇談を持った。指導開始前、途中経過、1年次のまとめの情報を示して説明することができた。2．運動会等各行事においては、目的、目標等を明示して広報を行った。学校評価に関するアンケートでは、回収率１００％であった。			
評価指標の達成度 及び 成果	「授業参観等で、わくわくして授業に参加する様子が見られた。」の質問項目では、１５名（８３％）の保護者が、「ややあてはまる」以上の評定をした。「授業参観や学部懇談を通して連携・協働関係を深めているか。」の質問項目では、１４名（７８％）の保護者が、「ややあてはまる」以上の評定をした。			
総合評価 （○で囲む）	A	(B)	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下
評　価　根　拠	上記のアンケートの保護者の評定により、B評価と判断した。			
次　年　度　の 課　題	保護者アンケートの自由記述、あるいは行事後の保護者の口頭によるご意見では、「行事等で生徒の活動が活発になるよう、さらに工夫してほしい。」との要望が数名の方から示された。活動内容の見直しが必要な面については改善するとともに、見た目の派手さでなく、生徒が自発したり、自己統制したりする行動が、さりげないものであっても着目していただけるよう啓発していきたい。次年度は、中学部の「わくわくする授業」の要素である「行動連鎖」と「対人相互作用」について、各行事の活動を見る視点に具体的に降ろして、事前に提案する工夫をしたい。			

平成23年度学校評価シート

学部・部	高　等　部
重点課題	保護者との連携・強化
重点目標	①保護者参観日、学校行事等を利用した学部の保護者懇談会を実施する中で、高等部の教育全般および進路指導における連携・協働関係を深める。

達成の 具体的な評価指標	・学部懇談会を年３回以上設定し、高等部の教育、学校教育その他の広報（説明）および質疑応答をする中で、保護者との連携・協働関係を深める。 ・保護者の学校評価において、学部の項目が３評価以上になる。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	・７月、11 月、２月において学部懇談会を設定し、高等部の教育課程、わくわくする指導の成果と課題、クラス運営、進路指導、学校行事などにおける広報（説明）と質疑応答をする中で、保護者の心情やニーズの理解に努める。 ・就業体験をはじめ学部行事の後に保護者アンケート調査を実施し、学部行事や学部運営などについて意見やニーズを調査・検討して次年度に引き継ぐようにする。特に２月においては、年間を総括するアンケート調査を実施する。

実　施　状　況	・７月の学部懇談会については、夏休み直前の学部行事の日を設定し、参加申込も終了していたが、台風による臨時休校のためやむなく中止となった。その後は、１０月の前期終了時と１月の参観日の時に学部懇談会を開催することができた。両日とも、１２，３名の出席であった。 ・行事後のアンケートについては、就業体験や修学旅行については、終了後の懇談時に意見を聞くことができた。学校展や学習発表会については全体アンケートに振り替えた。一年間の総括アンケートは２月末実施３月上旬に回収した。
評価指標の達成度 及び 成果	・年間３回の保護者学部懇談会を予定していたが、７月が中止になったため、事実上２回の実施となった。しかし、２回とも和やかな雰囲気の中、わくわくする学校生活やクラス運営、行事運営や参加について率直な改善意見提案と賛同意見がたくさん聞かれた。議題の他にも、家庭の話題や、お子さんの新しい一面が飛び出すなど、みなさんの笑顔が絶えなかった。学部懇談会開催意義は十分にあったと感じられた。

総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下

評　価　根　拠	・学部懇談会開催率は、６６．７％ である。一年間の総括アンケートは予定通り実施されたので計画実施において７０％以上に達したと考える。アンケート実施の結果、総合評価は総合的に３以上であった。
次　年　度　の 課　題	・学部懇談会は、７月、１０月、１月の年間３回実施する方向でよいが、学校・学部行事の後には、クラスの連絡帳や学部アンケートなどで確実な意見収集に努めることが課題である。また、普段から直接対話を心がけ、距離感を縮めることも必要である。特に、高等部から仲間入りされた二人の方が、できるだけ早くみなさんと打ち解けられるように応援をしたい。

平成23年度学校評価シート

学部・部	管理職、支援・進路部
重点課題	保護者との連携強化
重点目標	保護者が児童生徒の将来に向けてのビジョンを描くための支援となる研修会や懇談会を、22年度に作成した計画に基づき実施する。

達成の 具体的な評価指標	1　22年度に作成した計画に基づいた研修会を実施し、参加者の80%以上から「参考になった」という回答を得る。 2　今年度の実施結果及びアンケート結果に基づき、24年度の研修計画を作成する。
実　施　計　画 (手だて・スケジュール等)	・5月27日→新入生保護者研修会 個別の教育支援計画、サポートブック及び個別の指導計画についての説明等 ・7月15日→施設見学 保護者のニーズに基づき、卒業生が活動している施設等を見学 ・１月２５日→研修会 福祉制度に関する研修会を実施 ・３月　６日→保護者懇談会 アンケートを実施し、結果に基づいたテーマについての懇談会を実施 ・３月　　→２４年度の計画を作成

実　施　状　況	・5月27日→新入生保護者研修会 個別の教育支援計画、サポートブック及び個別の指導計画についての説明を実施 ・9月28日→施設見学 保護者のニーズに基づき、卒業生が活動している施設（れもんとＪＣＩ）を見学を実施 ・１月２５日→研修会 卒業生保護者を講師とした研修会を実施 ・３月　６日→保護者懇談会 保護者会組織改編及び希望があったテーマに沿っての意見交換を行う予定 ・３月中旬　→保護者懇談会後に２４年度の計画を作成予定
評価指標の達成度 及び 成果	1　22年度に作成した計画に基づいた研修会を実施した。すべての研修会において、85%以上の参加者から「参考になった・ニーズに合った内容だった」という回答を得ることができた。 2　24年度の計画については，24年度からスタートする保護者会新組織の担当者との検討が必要であるため，今年度中の作成は行わない。

総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下
	１研修会の予定通りの実施とアンケート結果 より「達成」と判断される。			
次　年　度　の 課　題	次年度より、保護者会活動の組織と内容が大幅に変わり、学校展の販売を主軸にした活動から、研修や安全教育に関する活動へと拡大される予定である。この組織を活用してのさらに児童生徒の指導・支援に関する連携強化を図っていくことが必要である。			

平成23年度学校評価シート

学部・部	管　理　職・総　務　部
重点課題	保護者との連携強化 ～ホームページの充実～
重点目標	全体に配布する資料などについて，決済が得られたものをホームページに掲載し，内容の充実を図る（説明責任）。

達成の 具体的な評価指標	・ホームページに掲載したらよいものについて確認し，リストの作成をする（管理職）。 ・資料を定期的（１ヶ月単位）でアップし，ホームページを更新する。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	・夏休みまで：（教頭） ホームページに掲載したらよいと考えられる資料についてのリスト（書類一覧）を作成する。 ・年間を通じて：（各担当） リストにもとづいて，担当者が起案し，決済の得られたものを指定されたフォルダに pdf ファイルで入れる。 ・１ヶ月単位：（情報担当） フォルダを確認し，ホームページの内容を１ヶ月毎に更新する。

実　施　状　況	・警報発令時の対応等、保護者が常に確認できるようにする必要がある項目を追加し、担当が掲載を行った。 ・ホームページに掲載するもののリストについては、更新のシステムの手続き等も含めて検討する必要があるため、今年度末までに双方を検討し、次年度からの運用開始ができるようにする。 ・ホームページの内容をを１ヶ月ごとに更新した。
評価指標の達成度 及び 成果	・ホームページの内容の更新を１ヶ月ごとに行うことができた。 ・保護者が常に確認できるようにする必要がある項目について，ホームページへの掲載を行った。

総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下
評　価　根　拠	・ホームページの内容の更新は行ったが、ホームページの掲載内容や更新システムの検討については，充分に行うことができなかったため。			
次　年　度　の 課　題	・ホームページの掲載内容と更新システムの検討を行うことにより、ホームページの充実を図る。			

平成23年度学校評価シート

学部・部	支　援　・進　路　部
重点課題	危機管理対策の見直し
重点目標	・近年の大震災の教訓を生かした安全教育の計画を作成する。

達成の 具体的な評価指標	・昨年までの安全教育の見直しを図り，東日本大震災の教訓を生かし，かつ本校の実態に即した安全教育の年間計画を作成する。
実　施　計　画 （手だて・スケジュール等）	前期：大震災後，その教訓を生かして安全教育が，どのように変化しているかの情報収集を行う。 後期：前期に収集した情報を生かし，かつ本校の実態に応じた安全教育全般の計画を作成する。 後期に行う安全教育については前期の情報収集を生かす。

実　施　状　況	5月　職員対象の救急救命研修 6月　火災避難訓練 8月　地震津波に関する職員研修 ・徳島市の防災対策の調査・避難ビルの確認。 ・各機関から本校の防災に関する情報収集 11月　地震・津波避難訓練
評価指標の達成度 及び 成果	・救急救命研修では，AEDの使用方法について参加者全員が実際に救助体験をすることができた。 ・6月，11月の避難訓練では，教職員，児童生徒とも危機感を持って取り組むことができた。特に6月は起震車による地震体験，消火訓練を行い，11月には救命胴衣の着用体験，地震・津波の学習等を行うことができた。 ・複数の機関から情報収集を行い，その情報を基に防災について計画をすることができた。

総合評価 （○で囲む）	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下

評　価　根　拠	・各部員が分担して，防災情報の収集を行うことができた。 ・児童生徒の実態に応じた避難について試案し，訓練を実施することができた。
次　年　度　の 課　題	・児童生徒の実態に応じた臨機応変な安全教育の計画・実施 新たな防災情報を収集し，その情報を生かした防災計画を立てる 今年度のアンケート結果を充分踏まえた安全教育の計画・実施する。 ・全職員に対して，新たに見直された救急救命の研修を行う。

平成23年度学校評価シート

学部・部	管　理　職・総　務　部
重点課題	危機管理対策の見直し
重点目標	災害時における想定を修正し，防災対策の見直しを図る。

達成の 具体的な評価指標	①災害における想定を修正して，新たなマニュアルを作成する。 マニュアルを実効性のあるものとするために，マニュアルに沿った避難訓練を実施する。 ②緊急時の連絡通信網を構築する。 ③災害時における備蓄について，全校生徒・職員が１～２日間待機するために必要な物品の整備を行う。 ④児童生徒の防災カードを作成する。
実　施　計　画 (手だて・スケジュール等)	①今年度度中に，東日本大震災に関する情報を収集し，それを活かした新たなマニュアルを作成する。マニュアルを実効性のあるものとするため，作成したマニュアルに沿った避難訓練を実施する。(今年度末) ②今年度中に，附属小学校のメール配信システムを参考に，一斉メール配信システム　を構築する。 ③今年度中に，大学と連携し，災害時における備蓄について，全校生徒・職員が１～２日間待機するために必要な物品の整備を行う。 ④前期中に，保護者会からの要望で２２年度に作成した防災カードをベースに，災害時に有効な防災カードの様式を検討し，作成する。

実　施　状　況	①年度末までに，東北大震災での教訓をふまえた徳島県教育委員会から　出た学校防災管理マニュアルに沿って本校の防災計画を見直し，来年度に検証及び改訂すべき項目をピックアップした。 ②メール配信システムの大学への登録が年度ごと更新となるので，来年度より実施ができるように登録準備を行った。 ③今年度収集した備蓄及び非常持ち出し袋，安全装備等に関する情報を基にして，購入すべき物品のピックアップを行った。予算的に購入可能な物については，来年当初に購入予定。設備　及び安全装備等，本校独自で購入が難しい物品については大学に要望を出している。 ④防災カートについては，　支援・進路部で作成した。
評価指標の達成度 及び 成果	①②③については，今年度は準備段階で終わってしまい，実施及び完了については来年度に持ち越した。 ④については，作成が完了した。

総合評価 (○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70 ～ 79%	50 ～ 69%	49%以下

評　価　根　拠	④は達成できたが，①②③については準備段階にとどまり、実施及び完了を次年度に持ち越したため。
次　年　度　の 課　題	今年度ピックアップした項目の検証をベースとした防災マニュアルの作成及び，ピックアップした備蓄品の購入。 メール配信システムの実用。